

## 適性検査のサンプル問題

以下のサンプル問題は、一例として作成したものであり、実際の問題の難易度や形式、設問数を示すものではないことに留意してください。

- 1 新城市の小学校のみさきさん、ちはやさんの学級では、交流している他県の小学生とオンラインで交流会を行うことになり、交流会に向けて、グループに分かれて他県の小学生に紹介したい「地域じまん」を考えることになりました。あとの問いに答えなさい。

問1 次の、みさきさんが考えた原稿の「-----」にあてはまる内容について、下の①から⑦までを並び替えます。

①から⑦までを並び替える順番として最も適当なものを、あとのアからカまでの中から選びなさい。

【みさきさんが考えた原稿】

この写真を見てください。これはさといもですが、普通のものよりも、丸くて大きいです。わたしは、「地域じまん」として、この新城市特産の「八名丸さといも」を紹介したいと思います理由は、二つあります。

一つめは、

二つめは、

【写真】八名丸さといも



以上の二つの理由から、わたしは「八名丸さといも」を「地域じまん」として紹介します。

- ① 最近では、「八名丸<sup>やなまる</sup>さといも」を使った「八名丸<sup>やなまる</sup>コロッケ」が、ご当地グルメとしてテレビや新聞でも紹介<sup>しょうかい</sup>されています。
- ② なんといっても、普通<sup>ふつう</sup>のさといもと比べて味がいいからです。
- ③ この地域で作られ始めた野菜だからです。
- ④ さらに、食感がやわらかく、ねばり気があるのも特徴<sup>とくちょう</sup>で、みそ汁<sup>しる</sup>に入れてもおいしいです。
- ⑤ しかし、2002年に「あいちの伝統野菜」に選定されたことで、ブランド化が進み、広く知られるようになりました。
- ⑥ 1945年ごろから作られていますが、当時はあまり有名ではありませんでした。
- ⑦ また、煮崩<sup>にくず</sup>れしにくく、味がしっかりと染<sup>し</sup>み込<sup>こ</sup>むので、煮物<sup>にもの</sup>やおでんに最適です。

- ア 「一つめは、」 → ③ → ⑥ → ① → 「二つめは、」 → ② → ⑦ → ⑤ → ④  
 イ 「一つめは、」 → ② → ⑦ → ④ → 「二つめは、」 → ③ → ⑥ → ⑤ → ①  
 ウ 「一つめは、」 → ② → ⑥ → ⑤ → 「二つめは、」 → ③ → ① → ④ → ⑦  
 エ 「一つめは、」 → ③ → ⑦ → ④ → 「二つめは、」 → ② → ① → ⑤ → ⑥  
 オ 「一つめは、」 → ③ → ④ → ① → 「二つめは、」 → ② → ⑦ → ⑥ → ⑤  
 カ 「一つめは、」 → ② → ① → ⑦ → 「二つめは、」 → ③ → ⑥ → ④ → ⑤

〔正答〕

イ

問2 みさきさんとちはやさんは、「八名丸<sup>やなまる</sup>さといも」を他県の小学生に<sup>しょうかい</sup>紹介するため、実際に「八名丸<sup>やなまる</sup>さといも」を使って<sup>にもの</sup>煮物を作り、みんなで食べてみることにしました。

<sup>にもの</sup>煮物を作るために、二人はさといもを30個用意し、同時に皮をおき始めました。みさきさんが12個、ちはやさんが8個おき終えたのがちょうど同時で、かかった時間は12分でした。

その後も二人はいっしょに皮をおき続け、少し時間が経過したところで、ちはやさんは<sup>に</sup>煮る準備をするために皮をおくのをやめ、残りのさといもは、みさきさんが一人で皮をおきました。

みさきさんとちはやさんが皮をおき始めてから、みさきさんがおき終わるまでにかかった時間が20分であったとき、みさきさんが一人で皮をおいていた時間として正しいものを、次のアからキまでのの中から選びなさい。

ただし、さといもの大きさと形は全て同じとし、二人がさといもの皮をおく速さはそれぞれ一定とします。

ア 1分	イ 2分	ウ 3分	エ 4分
オ 5分	カ 6分	キ 7分	

〔正答〕

オ

問3 ちはやさんは、さといもの煮物<sup>にもの</sup>をつくるために、鍋<sup>なべ</sup>に水を入れて火にかけました。しばらくすると、水がふっとうし、水の中から大きなあわが出て、湯気が見えました。

この現象や水の温度と重さの関係について説明した次の文中の( A )、( B )、( C )のそれぞれにあてはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、下のアからクまでの中から選びなさい。

水がふっとうしているときに出ている大きなあわは、水蒸気<sup>すいじょうき</sup>です。水蒸気<sup>すいじょうき</sup>が空気中で( A )液体の水になり、水の小さな粒<sup>つぶ</sup>として目に見えるようになったものが湯気です。水蒸気<sup>すいじょうき</sup>が湯気になることと同じような現象として、( B )ということがあげられます。

また、同じ二つのコップに、60℃の水と10℃の水を、それぞれ同じ体積になるように入れて重さを量ると、( C )の水の方が重くなります。

	A	B	C
ア	あたためられて	ほ <sup>ほ</sup> 干していた洗濯物 <sup>せんたくもの</sup> がかわく	60℃
イ	あたためられて	寒い日にまどの内側 <sup>けつろ</sup> が結露する	60℃
ウ	あたためられて	ほ <sup>ほ</sup> 干していた洗濯物 <sup>せんたくもの</sup> がかわく	10℃
エ	あたためられて	寒い日にまどの内側 <sup>けつろ</sup> が結露する	10℃
オ	冷やされて	ほ <sup>ほ</sup> 干していた洗濯物 <sup>せんたくもの</sup> がかわく	60℃
カ	冷やされて	寒い日にまどの内側 <sup>けつろ</sup> が結露する	60℃
キ	冷やされて	ほ <sup>ほ</sup> 干していた洗濯物 <sup>せんたくもの</sup> がかわく	10℃
ク	冷やされて	寒い日にまどの内側 <sup>けつろ</sup> が結露する	10℃

[正答]

ク

問4 みさきさんとちはやさんは、今回の「地域じまん」の発表をきっかけに、農業に興味をもち、日本の農業について調べることになりました。二人は、農林水産省のウェブページにあるデータをもとに【資料1】、【資料2】、【資料3】を作成し、話し合いをしました。

話し合いの様子を示した【会話文】および【資料1】、【資料2】、【資料3】の内容から考えられることとして適当なものを、あとのアからオまでの中から二つ選びなさい。

【会話文】

みさきさん：【資料1】では、日本人の食生活が、1960年度から2020年度にかけて大きく変化したことを表にしたけど、米の消費量が減って、肉類や牛乳および乳製品にゆうせいひんの消費量が大きく増えているね。

ちはやさん：【資料2】では、日本の食料自給率の変化を表にしたけど、1960年度も、2020年度も、国内で食べられている米のほとんどは、国内で生産されているね。

みさきさん：農業をやっているおじいちゃんから聞いたんだけど、日本では1960年ごろから、米の生産量が消費量より多くなって、米が余るようになったんだって。そのために、1969年から、米の生産を減らす生産調整が行われて、多くの農家が転作をして、米以外の作物を作るようになったそうだよ。

ちはやさん：みさきさんのおじいちゃんのように、農業を主な仕事にしている人が1960年から2020年にかけて大きく減ったことや、そのうち60歳さい以上の人の割合がすごく増えていることをグラフにしたのが、【資料3】だよな。

みさきさん：私のおじいちゃんはまだまだ元気に畑に行っているよ。おじいちゃんは無農薬の野菜を育てていて、この前スーパーマーケットに行ったら、おじいちゃんの名前と顔写真のシールを貼はった野菜が売られていたよ。

【資料1】食料品目ごとの日本人一人1日当たりの消費量の変化

年度	米	小麦	肉類	牛乳および 乳製品 <small>にゆうせいひん</small>	野菜	くだもの 果物
1960年度	314g	70g	14g	60g	273g	61g
2020年度	139g	87g	92g	258g	242g	93g

【資料2】日本の食料自給率<sup>※1</sup>の変化

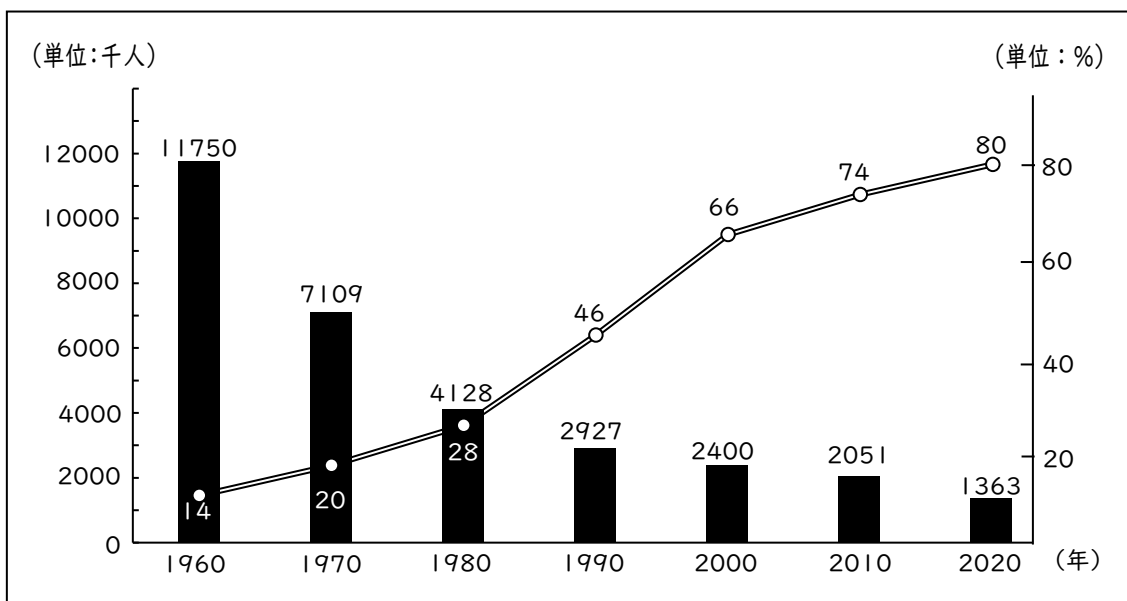
年度	食料品目別自給率 <sup>※2</sup>						総合食料自給率 <sup>※3</sup>
	米	小麦	肉類	牛乳および にゅうせいひん 乳製品	野菜	くだもの 果物	
1960年度	102%	39%	93%	89%	100%	100%	79%
2020年度	97%	15%	53%	61%	80%	38%	37%

※1 国内で食べられる食料に対する、自分の国で作られている食料の割合のこと。生産額、重量、熱量（カロリー）から計算する方法がある。

※2 重量から計算したもの。

※3 熱量（カロリー）から計算したもの。この<sup>あた</sup>値は、表の6品目の平均ではなく、全ての食料品目から計算している。

【資料3】農業を主な仕事にしている人の数と、そのうち60歳以上がしめる割合



※ 資料1、資料2、資料3は全て「2020年度 農林水産省 食料需給表<sup>じゆきゆうひよう</sup>」をもとに作成

- ア 1960年度から2020年度にかけて野菜の消費量が減ったのは、米の生産量を減らす生産調整が行われたことにもなって、多くの農家が転作をしたことが原因である。
- イ 日本国内のスーパーマーケットで売られている野菜は、全て生産者の名前と顔がわかるようになっているため、消費者にとっての安全・安心が確保されている。
- ウ 総合食料自給率が約60年間で大きく低下したことは、食生活の変化によって消費量の増えた食料品目が輸入によってまかなわれてきたことを示している。
- エ 農業を主な仕事にしている人の数のうち、60歳以上がしめる割合が増えて高齢化は進んでいるが、農業を主な仕事にしている人の数は、全体としては減っていない。
- オ 2020年に60歳未満で農業を主な仕事にしている人の数は、1960年の約2.7%に過ぎないことから、食料を効率的に生産するためのくふうが必要になっている。

〔正答〕

ウ・オ